

「高倉の昔ばなし」より

二番 観音堂の竜

平成十年一月二十五日
高倉郷土芸能保存会 芸能部

ナ『高倉寺観音堂の竜は、今から二五四年前、飯能市の白子から、観音堂が高倉に移された時、新たに彫られたもので、表のランマに入っていた。』

開幕

道 鍬をかつぎ (A・B・C(女)・D 4人位) 踊り歩きでステージへ上り正面向き鍬をつく
A、手をかざし

×

A 「アレアレ西つ沢の田んぼの稲がベタベタだア、コリヤアてえへんだ早く行
ってんベエヤ」

四 かけ足踊りステージを一周して前へ下る

×

A 「見ろや、こんなにおっ倒しやエがってよう」

B 「まったくだれのワルサだんベエなア」

C 「天狗さんのいたずらかしら」

D 「まあしようがねエから皆で起すベエヤ」

鎌 稲を起こすしぐさ

— ぞしてやおらステージへ上り正面を向き皆腰を下す

×

A 「アアまいった、まいった、もう荒されねえように観音様エよく拝んでいく
ベエ」

皆、立上り後ろを向いて手を合わせる

B 「アレー変だなア、この竜の足にドロがくっついてんで」

D 「この竜が田んぼを荒しただよ」

皆 「ウーン、そうだ、そうだ、しようがねエ竜だ」

A 「うーんあにか竜をしずめるいい考エはねえもんかなア」

皆、腕を組み首をひねる

B
皆

「どうだい竜の足に釘を打ってヨ、爪もひっかいたらやア」

「うんうんそうすべエ、そうすべエ」

拍子木に合せ釘を打ち、爪を欠き取る

ナ『そしてこの後、西の沢の田んぼは荒されなくなり、竜も雨乞いの竜としてあがめられた。さア今年も豊年満作だア』

〔万〕 ステージ上で稲刈、束ね、車に積み場外へ

〔閉幕〕 ×

※鍬、鎌、金、槌 〓 扇子使用 車 〓 から傘使用

〔道〕 道中ばやし

〔万〕 万灯ばやし

〔四〕 しちうめばやし

〔×〕 切り（曲の止まり）

〔鎌〕 かまくらばやし